

自己評価および外部評価結果(あんき)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は、入居者様への対応を、職員理念は、職員の職務、チームワーク、ご意見等です。事務所、廊下に掲示し、全職員理念を共有し会議や話合の機会に唱和しています。	「入居者一人ひとりがその人らしく生き生きと生活できるよう支援していこう」という理念を室内に掲示しており、職員全員が共有し易いよう、管理者自ら理念に向けて、日頃のサービスにおいても実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・自治会・環境衛生等に入会し、自治会主催の老人会活動にも参加しています。菰池子供会の祭りの神輿の受入れ、琴浦北小学校の学芸会の参加、岡山県鷺羽高等学校のインターンシップの受入れ等を実行しています。	地域と行事(祭りやイベント)を通して、活発な交流ができており、また、自治会への加入により、地域の一員としての活動が積極的に行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	菰池コミュニティーセンターにパンフレットを置くと共に、敬老の日に、毎年菰池学区85歳以上の方に「パンフレット・お祝いメッセージ」を配り、誰でも連絡希望があれば説明に伺っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も8月で20回行いました。運営推進会議の内容、施設運営について、皆様にご意見やアンケートにご協力を頂きました。2ヶ月に1回の会議の日も、最終時に質疑・要望・意見を拝聴して、今後の対応の参考としています。	定期的な運営会議の開催のなかで、地域の人達と具体的な意見が交わされて、毎日のサービスの質向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岡山県長寿社会対策課・倉敷市介護保険課の窓口を施設長の藤原が担当し、書類の提出、質疑や確認に当たっています。岡山県・倉敷市介護保険課のホームページの閲覧も毎週行うようにしています。	オーナー自ら、行政会議などに参加し、情報等を施設の運営に生かしている。また、職員会議を通してケアサービスの中に取り組めるように努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	岡山県保健福祉部長寿社会対策課の「ケア従事者のための身体拘束ゼロのハンドブック」を就業者全員に配布し、勉強会を開催いたしました。身近に置き確認しつつ、日々のケアの向上と身体拘束のないケアに努めています。	身体拘束をしなくても良い、自由な環境づくりに取り組んでいる。夜間時においても、眠れない人への個別の暖かい対応ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待を考える」を送付頂き、勉強会を行っています。岡山県保健福祉部長寿社会対策課「防ごう高齢者虐待」を頂き勉強会を開きました。虐待防止を介護職員全員で、お互いに監視しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	岡山高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会「かんたん後見人」を送付頂き勉強会を行いました。後見人の付いた入所者様がいましたが、後見人の弁護士さん、後見人の社会福祉主事さんが付いておられました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者様と家族様一人一人に、「重要事項説明書」の説明時は十分に説明し、疑問質問もお受けしています。充分納得の上で同意頂きその後、契約書に署名・捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート・外部評価・実地指導等は、家族会総会・運営推進会議等で公表します。委員様の評価・意見・要望等お伺いし、今後の施設の課題とし検討実践の参考にさせて頂いています。	玄関横に意見箱を設置すると共に、日頃から利用者家族へアンケートをとることで、家族の意向も伺いながら、運営に反映させるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務表の作成前に、希望休等を聞き、勤務表に反映するようにしています。週に1日位は、昼のミーティング時に出勤ユニット職員全員に、一番困って居ることを聞いています。また、決定事項は回覧して職員に内容の共有を図っています。	職員会議以外でも管理者は職員の意見や提案を積極的に取り入れるようにして、気持ちよく業務ができる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表取締役・施設長は、研修・勉強会等に進んで出席し、フィードバックをしています。職員の経験年数があれば、実践者研修に参加するようにしています。将来は、管理者・計画作成担当者に成るための準備です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	私たちの、身近な問題等があれば、職場で2ヶ月に一度位は、当ホーム機能訓練室で、勉強会を開催しています。出来るだけ多くの参加を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホーム管理者や病院のソーシャルワーカー・相談員さんの見学会の終わりに懇談会等で、良いと思われる事・悪いと思われる事・気になる事・ご意見等アンケートに記入いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人一人の、本人の思いや不安を受け止め職員も共有することでお互いの信頼関係が築かれると思います。本人が何を求め、本人のために何が一番大切かを十分に観察し、適切な対応を職員が共有します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様一人一人のご家族のご要望・困っていることや不安を解消していただけるように努力しています。ご自分のご家族を安心してお預け頂けるホームになるように、介護ケアサービスの面も努力致します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様一人一人の相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を繰り返し、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様一人一人が広々空間で、支援する側、支援される側という意識を持たず、相互関係を保ちお互いが協力しながら、穏かな生活が健康で永く続けられるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者様の心境を考えると、家に帰りたい、家族に会いたい、お金がなくなるのでは等いろんな不安で一杯だと思われます。心の不安は家族とホームの職員が連携することで達成できると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	秋には、毎年恒例の児島スカイラインに紅葉とドライブに行きます。瀬戸内海・児島の町並み・由加山・水島工業地帯・水島の町並み等、その人が生活の場とした町並みを見て変化を懐かしみ、ドライブを楽しみます。	利用者が今まで大切にしてきた馴染みの関係（入所前のケアマネージャーとの交流や家族、友人との関係）が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の共同生活の中で利用者同士の仲の善し悪しに配慮し、食事のテーブルの人員配置を検討しながら席を替えています。職員が利用者の好き・嫌い、あう・あわないの関係を一番に気付く事が必要だと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の新しい施設・病院等に移転する場合も、これまでの生活状況・生活環境・支援の内容・注意が必要な点等を情報提供し、丁寧にきめ細かい連携を心がけています。面会等の実施等・情報提供等の実施しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の一人一人の希望、意向、思い等を出来るだけさりげなく聞き、職員が共有し今後のケアに生かしていただけるようケアプランに取り入れています。利用者様の現実の共有を職員全員が共有している。	ホール内に図書室を設置し、自由に読書できるように工夫している。また、施設横の畑や庭等を自由に動ける環境にすることで、一人一人の思いや暮らしに合った生活プランを作成する手助けになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の面会時などに、利用者様には内緒で、事情を説明し納得の上で、家族に懐かしいお話をさせていただき、利用者ご本人の話を職員も一緒にお聞きしています。職員が情報を共有するように配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様、一人一人の介護記録を書いています。送り時、変化については言葉で伝え、詳細は介護日誌を読んで確認いただき、重要な事柄は送りノートに記載し、確認していただく様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意向も現状も変化し、かみ合わない部分が生じた場合は、モニタリングを実施し、ご家族に説明し納得していただき、職員も意見交換後に介護計画の見直しを実施し、介護計画に副ったケアの実施する。	日々の生活の中での気づきを通して、また、定期的なカンファレンスを通じて、職員全員で「その人らしく生きる」ための意見交換を行っている。そして、本人や家族の意向に添えるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の、普段の様子は介護日誌に記入しています。重要事項や特別な様子は、送りノートに記載し、気づきについては、言葉で申し送る様にしています。全職員が勤務開始前に確認する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の認知が進み、グループホームの限界に来ている方がいます。家族の要望で、特別養護老人ホームか精神病院に入院させたくないとの要望で、職員を一人余分に配置し、出来る限り当ホームでお世話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議も前回で20回目でした。運営推進会議には、自治会、民生委員、愛育委員、地元住民代表、地域包括支援センターの職員が参加し、周辺情報や支援情報交換等、協力関係が築けました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族の希望を伺い、水島南診療所の受診を現在、全員受けています。緊急時にも、認知症の方の受入れ病院はなかなかありません。救急車を呼んでも受入れ病院がありません。	かかりつけ医と24時間連絡往診が出来るような体制が整えられていると共に、訪問看護師による医療連携が行なっている。また、急変時の対応も速やかに出来るよう、入院への体制も整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携は、水島南診療所をお願いしています。分からない事や心配事相談を24時間体制でお願いします。主治医も看護師さんも、同じ事業所なので、健康状態も確認でき、事業所は大変助かっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員全員が組合員です。日ごろより色々お世話になっています。乳癌子宮癌勉強会、食品衛生等の勉強会など、お世話になっております。職員様と日ごろから、より良い関係づくりが出来ています。お互いに情報提供も充分に出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や延命治療・終末期の看取りの指針を、ご利用者様、家族様に充分説明し、アンケート用紙で意思を確認しています。時折、重度化や看取り・延命治療について主治医からも確認していただきます。また、管理者も再度確認致します。	日頃から重度化を防ぐよう、日々のケアに取り組む、終末期における勉強会も開催されている。また、気になることがあれば、かかりつけ医が相談に乗ってくれる体制も整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応にはマニュアルが有り、落ち着いて対応するように普段から全職員、訓練されています。水島南診療所での前先生の緊急時対応の勉強会、倉敷児島消防署、普通救命講習1を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーで自治会、消防団、民生委員等に協力体制を要請しています。災害に充分耐えられるか、1級建築士・1級土木施工管理技師に、意見を聞き確認し、大丈夫の検査結果を頂いています。	災害対策における避難訓練も実施され、避難経路もスタッフ全員が理解して、速やかな避難ができるよう訓練されている。また、災害時における地域の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人一人が人生の先輩と認め、尊厳とプライバシー保護を守るように指導しています。入居者様の名前は、苗字にさん付けで、複数いる場合は、氏名にさん付けで呼ぶようになっています。	日頃の会話の中で、利用者の人格を否定しない言葉かけに気をつけながら対応している。新人スタッフに対してはその都度、管理者が指導するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の一人一人の日常生活全般に、職員の決めた事を、押しつけるのではなく、利用者一人一人の自己決定を尊重するように複数の選択肢を提案する様に心がけて実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様一人一人のホームとしての基本的な流れはありますが、利用者一人一人、出来るだけ個性のある日常生活が過ごせるように、その人に合った介護支援を考慮したし支援体制を心がけて実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様で、髪型等理美容院にこだわりがある方は、ご家族が一緒に出かけられて気に入った髪形にされています。その他の方で髪型にこだわりの無い方は、職員による散髪や髭剃等でお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームには菜園が有り、その日に使う野菜は、利用者職員が菜園に籠とはさみを持って収穫に行きます。旬の取立て野菜を収穫しています。職員より、野菜の種類と畑で採れた事を報告、季節感と食材を同時に頂くことができます。	季節感が味わえるようにできるだけ、施設内の畑で採れた物が食卓に並ぶように調理されている。地元で釣れた魚を調理する時には鮮度を重視している。また、職員は食卓にはできるだけ明るい話題を提供するように心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様の一人一人の能力に合った咀嚼、嚥下等考慮して、食事の形態を、きざみ、ミキサー食、普通食に分けて提供しています。又、飲み込みのわるい人には、とろみをつけた食事を提供しています。月に1回、体重移行の確認を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の義歯の方は、夕食後は義歯ははずし、洗面所でポリドント等の洗浄剤で洗浄除菌を毎日朝まで行なっています。又、毎食後うがいを行なうようにしています。その他の人は毎食後歯磨きをしていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の一人ひとりのリズムに合わせて、排便、排尿の失敗の多い人には、トイレの声かけをさりげなく行なう様に職員全員で見守り、声かけを心がけ、実践しています。	入所時にはオシメを使っていた利用者にも、排泄を自立させるためのケアが実践されている。入居者のプライバシーに配慮しながら支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様全員に提供される食材やメニューを工夫し、毎日ラジオ体操を行なって、こまめな水分補給と身体を動かすことを、職員全員が毎日心がけて実践するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、健康な利用者様全員に「これから入浴の容易が出来ましたが、入浴希望者の方はいませんか？」と声かけし、入浴希望者から順次入浴をしていただきます。嫌がる人は無理をせず、後から再度声かけし、無理に強制はしていない。	車椅子利用の重度の利用者も、浴槽に入れる体制が整えられており、希望があれば毎日の入浴も可能である。個々の希望に添った支援が提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様一人一人の日常生活リズムの違いから昼夜逆転され、非常に迷惑な方が時々現れますが、昼間の睡眠を控えて頂き、夜に充分睡眠をして頂く様に正常な日常生活に向けて、職員全員で心がけて実践しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の一人一人の処方箋をまとめ、薬の表を作成し、職員全員が確認し把握するように、心がけて実践しています。特に変更等があれば、申し送りノートに記載し、確認の必要を指示します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の中に、盆栽の好きな方が居られ、ホームの盆栽の手入れをして頂いています。又、水やりの係りも進んで頂いて助かっています。犬のお世話を頂く方も居られます。活動的な支援をします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の日常的な外出支援は、家族会等機会があるごとに家族、職員も含め食事会、ドライブ、買い物等支援を話し合い、出来るだけ心がけて希望をかなえられるように支援しています。充分説明し、納得の上、家族の協力要請もいたします。	閉じこもり防止のため、地域の人や家族に協力してもらいながら、出来るだけ外出する機会を作っている。利用者の心身の安定に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭所持については、ご家族、本人様の意向を重視し、一人一人その人にあつた金銭管理を支援するように心がけて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様には、毎年一人一人に年賀状を家族に送るようにホームで用意し、思いやコメントを書いて頂いて手作り年賀状をお送りしています。家族様には年賀状・手紙を頂くようお願いしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人一人の思い入れを考慮して、窓を大きく明るく、風通しのいい、全室冷暖房付で、色は、明るくし、シンプルに白くし、床は、転倒しても痛くないようにクッション材を使用して安全面も考慮しています。景観も最高で、窓から瀬戸内海も由加連山も見渡せます。	建物の中の一つ一つのスペースには十分なゆとりがあり、また、利用者が自由に動ける環境も整えられていて、居心地よく過ごせる工夫がある。	建物周囲の環境をもっと整えると、施設がより一層明るく感じられるようになると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者様一人一人の配慮から、玄関にベンチ1組、玄関受付にテーブルと椅子2組、休憩室に応接セットとテレビ、食堂も4人テーブル6組、テレビ室応接セット1組、ソファ2組など居場所の工夫も考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人一人への配慮から、我が家のような、利用者様の気に入った居心地のいい部屋作りを、ご家族の納得・協力の下、職員全員心がけて実践しています。	室内は掃除が丁寧に行われており、清潔感が保たれている。また、壁には家族写真などが掲示されていて、利用者が安心して過ごせる空間(部屋)作りが出来ている。	ご家族の協力を得て、居室内に昔使っていた家具や装飾品などを持ち込むことで、更に居心地良く過ごせる居室が提供されていくのではと感じました。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者一人一人の心身の状況を考慮し、食事の配膳、洗濯干場、図書の本の置き場所等を変えて見たり、混乱や失敗を職員全員で把握し連携し、対応する様心がけて実践しています。出来ない事への介助支援をしています。		